

雲外蒼天

第1号

題字・高木 飛翔

宇都宮相撲道場会報/令和5年 12 月1日発行

UTSUNOMIYA



雲外蒼天

令和五年七月一日、宇都宮市を拠点とする宇都宮相撲道場を旗挙げした。

宇都宮市は、初代横綱明石志賀之介、二代目横綱綾川五郎次の生誕の地として古くより相撲とゆかりのある土地である。近年、栃木県の相撲処といえ大田原市をはじめとする県北地域であり、全国大会団体優勝経験のある中学校や、全国で強豪校と呼ばれる高校がある。宇都宮市内には拠点となる中学校や高校はなく、相撲が盛んとは言い難い。しかし、令和四年に栃木県でいちご一会とちぎ国体が開催され、スポーツに対する気運が高まっている。令和五年八月には全国初となるLRTが開業し栃木県一の都市宇都宮はさらに活気づいている。“初代横綱生誕の街”宇都宮から全国で活躍できる選手を育てたいと始まった。

宇都宮市には、県総合運動公園、陽南第一公園の二カ所に土俵がある。その内、陽南第一公園で定期的に練習会を行っていた陽南道場と連携し活動をはじめ、新しい道場として幕を開けた。集まった選手たちは十三名。夢に向かって集まってくれた選手たち。この仲間たち、保護者、そして道場を支えてくださる方々と共に、様々な経験を重ね、立ち上がる困難を乗り越え、“雲外蒼天”の志で努力し、勝利の先にある喜びを全員で分かち合いたい。

宇都宮相撲道場

令和五年五月、宇都宮市内に新たな相撲道場を立ち上げるべく、かねてより宇都宮市内で活動をしていた相撲クラブ『陽南道場』を栃木県相撲連盟の普及部及び強化部が視察を行った。陽南道場を運営してきた内藤清氏、田崎稔氏と普及部長の高木が協議を重ね、六月二十一日に設立した。栃木県相撲連盟より新道場として承認を受け、七月一日に旗挙げをした。



エンブレムマーク

宇都宮の頭文字“U”と相撲の頭文字“S”を、土俵をかたどった円の中に描き、相撲を想起させる横綱と宇都宮を象徴する宮の文字を入れ、一致団結して未来へ駆け出していく姿をイメージして創られた。宇都宮の土俵から全国の地で活躍する選手が生まれてほしいという思いが込められている。

シンボルマーク

百獣の王ライオンが王者の証である冠をかぶり、神々しく輝いている姿を描いている。宇都宮相撲道場のチームカラーである青と相性の良い反対色のオレンジを合わせ、勇ましく佇む様子をイメージしている。宇都宮で相撲に励む選手たちが土俵の上で獅子吼してほしいという思いが込められている。



令和五年度役員紹介

代表

Representative



高木 飛翔 Tsubasa Takagi

(長野県・木曽青峰高校・日本体育大学出身)

副代表

Deputy Representative



内藤 清 Kiyoshi Naito

(栃木県宇都宮市)



田崎 稔 Minoru Tasaki

(栃木県宇都宮市)

ヘッドコーチ

Head Coach



鈴木 雄山 Yuzan Suzuki

(栃木県大田原市・黒羽高校出身)

アドバイザーコーチ

Advisory Coach



菊池 大史芽 Hiroshige Kikuchi

(青森県・木造高校・日本体育大学出身)

コーチ就任にあたり

アドバイザーコーチ 菊池 大史芽

宇都宮で相撲を始めてからの日々は、どうでしょうか。選手たちの様子を見てみると、日々取り組む姿勢と表情が変化し、勝負師の眼差しになってきていると感じます。

先日の全国少年相撲大会はもちろん、相撲部屋への出稽古や県外遠征等を通じ、普段経験することのない時間を過ごしていると思います。相撲が強い弱いはもちろん大切ですが、国技である相撲というスポーツから学ぶものは多くあります。『心技体』と言われるように、私は『心』がとても大切だと考えています。礼節を重んじる心や、忍耐力、思いやりの心、感謝の気持ち。相撲から得るものは自分の一生の財産となります。

相撲人口が減る中、宇都宮で相撲を始め、日々努力する選手たちは相撲界の宝です。今後も、選手一人ひとりの可能性を信じ、挑戦する基盤を作れるように指導して参ります。

賛助会員の皆様、保護者の皆様、いつも宇都宮相撲道場の活動に御理解、御協力頂きありがとうございます。皆様の御協力無しでは、道場は成り立ちません。今後ともお力添えの程よろしくお願い致します。

ヘッドコーチ

鈴木 雄山

私が宇都宮相撲道場に関わらせていただくようになり、五カ月が経ちました。選手たちの成長のはやきに日々驚かされるばかりです。週二回の稽古、大会等でしか選手たちには会えていませんが、会うたびに強くなる姿、負けても涙を堪えてまた立ち上がり稽古に勤しむ姿勢に私自身、とても励まされています。

相撲という競技は、引分けがなく、勝ち負けが絶対に存在してしまいます。だからこそ、勝負の中にある相手に対する敬意、土俵に上がるまでに稽古で学んだこと、仲間達と努力した時間を大切にしたいと思っています。そうすれば、結果は必ず付いてきます。

保護者の方々にはご迷惑をおかけしてしまいうこともありますが、今後とも御理解と御協力の程よろしく願います。また、賛助会員の皆様、宇都宮相撲道場を応援して下さるすべての皆様の御協力なしでは活動は成り立ちません。至らぬ点多々ございますが、今後も私たちにお力添え頂きますと幸いです。よろしくお願い致します。

一般廃棄物処理業・し尿及浄化槽清掃整備・設置工事
浄化槽維持管理・産業廃棄物処理業・下水工事

有限会社 河内環境産業

本社 〒329-1105 宇都宮市中岡本町 3021-7 TEL 028(673)2773
事務所 〒329-1102 宇都宮市白沢 632 TEL 028(673)9694

選手紹介

宇都宮相撲道場では十三名の選手たちが日々共に汗を流している。同じ土俵で汗を流す仲間たちは一人も欠かすことができない。まさに、大切な家族そのものである。仲間の試合は自分のことの様に全力で応援し、辛い時は共に支えあい乗り越え、嬉しい時は皆で喜びを共有しあう。学校や学年の枠を超え、切磋琢磨しながら稽古に励んでいる。そんな個性あふれる十人十色の選手たちを紹介する。

- ① 学校名 ② 身長 ③ 体重 ④ 相撲を始めたきっかけ ⑤ 目標 ⑥ 好きなお店 ⑦ 代表より

小学校二年生

野口 燿

① 宇都宮大学共同教育学部附属小学校

② 130 cm

③ 30 kg

④ お兄ちゃんの影響を受けたから

⑤ 来年のわんぱく相撲で優勝すること

⑥ マクドナルド

⑦ まじめで気配りのできる選手です。手足の長さを活かした相撲が得意です。

渡邊 倅暉

① 宇都宮大学共同教育学部附属小学校

② 115 cm

③ 25 kg

④ 高木先生に出会って

⑤ 大会で優勝する

⑥ お子様ランチのあるお店

⑦ 倅暉が頑張れば、皆明るくなります。勝負に強く、チームの大切な存在です。



小学校三年生

一宮 悠季

① 宇都宮市立岡本北小学校

② 130 cm

③ 55 kg

④ 保育園の相撲大会がきっかけで

⑤ これから出場する大会で優勝する

⑥ 蒙古タンメン中本の塩タンメン

⑦ 強くなろうとひたむきに一生懸命練習に取り組む姿が輝いています。

高田 璃唯羅

① 宇都宮市立築瀬小学校

② 130 cm

③ 30 kg

④ わんぱく相撲に出て

⑤ 次の大会優勝する

⑥ 焼肉キング

⑦ 誰よりも負けず嫌いで、勝ちにこだわる相撲が周りの選手のお手本です。



小学校四年生

石川 孔雅

① 宇都宮市立宝木小学校

② 135 cm

③ 45 kg

④ もっと強くなりたいと思ったから

⑤ 全国大会に出場し優勝する

⑥ 焼肉キング

⑦ 相撲センス抜群で小さい体ながら果敢に挑む姿で会場を沸かしています。

高田 悠唯羅

① 宇都宮市立築瀬小学校

② 140 cm

③ 45 kg

④ わんぱく相撲に出て

⑤ 全国大会で優勝する

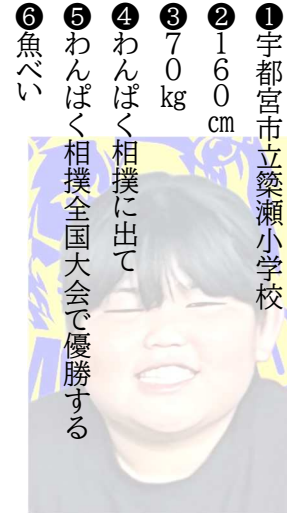
⑥ 焼肉幻

⑦ 気配りができ、面倒見の良い選手です。練習にも一生懸命取り組んでいます。



小学校五年生

高田 怜唯羅



① 宇都宮市立築瀬小学校
② 160 cm
③ 70 kg
④ わんぱく相撲に出て
⑤ わんぱく相撲全国大会で優勝する
⑥ 魚べい
⑦ 全国制覇した相撲はとても立派でした。チャンピオンとして尚も期待です。

中野 大義



① 宇都宮市立豊郷南小学校
② 160 cm
③ 75 kg
④ わんぱく相撲に出て
⑤ 心越君に勝つ
⑥ 魚べい
⑦ 前に出る時の出足は群を抜いています。優しい性格で何事にも一生懸命です。

野口 碧王



① 宇都宮市立姿川第一小学校
② 150 cm
③ 40 kg
④ 相撲を見るのが好きで
⑤ わんぱく相撲で優勝する
⑥ カルビ大将
⑦ 小さい体ですが粘りのある相撲で大きな選手とも互角に戦っています。

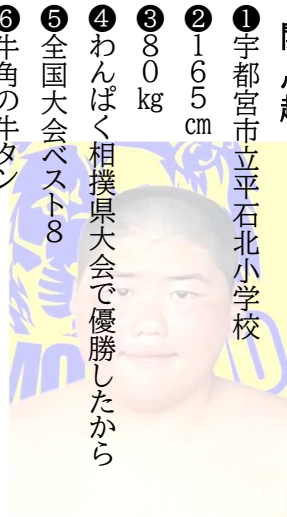
小学校六年生

重盛 結太



① 宇都宮市立横川西小学校
② 155 cm
③ 50 kg
④ 友達が相撲をやっていたから
⑤ 全国大会に出場する
⑥ 田村食堂(長野県伊那市)
⑦ 言われたことをすぐに実行できる吸収力。運動能力抜群の選手です。

関 心越



① 宇都宮市立平石北小学校
② 165 cm
③ 80 kg
④ わんぱく相撲県大会で優勝したから
⑤ 全国大会ベスト8
⑥ 牛角の牛タン
⑦ 明るく、元気のある相撲を取ります。突押し力の強さで今後の活躍に注目です。

割谷 蒼司



① 宇都宮市立緑が丘小学校
② 150 cm
③ 45 kg
④ 楽しいから
⑤ 大会で優勝する
⑥ サイゼリヤ
⑦ 誰よりも練習に励み、持ち前のセンスにさらに磨きがかかってきました。

中学校一年生

割谷 純虎



① 宇都宮市立陽南中学校
② 170 cm
③ 70 kg
④ 父が昔やっていたから
⑤ 次の大会で優勝する
⑥ かつや
⑦ 不器用ながらも相撲が好きで一生懸命な姿が後輩たちにも映っています。

選手募集中!

宇都宮相撲道場では共に稽古に励む仲間を募集中です。

見学、稽古体験

随時受付ております。

詳細は本誌裏面の

SNSよりご連絡

ください。



宇都宮相撲道場
Utsunomiya Sumo Club

通常練習

水曜日十八時から二十時まで、土曜日十六時から十八時までの毎週二回、宇都宮市陽南第一公園で練習を行っている。通常練習会では「自分で考え、自分で学ぶ」ことを軸に稽古に励んでいる。準備、片付けをはじめ練習中も同様である。相撲の番数も自分で決めている。試合では自分一人で土俵に上がらなければならない。だからこそ普段から自主的、主体的な稽古を大切にしている。

また、それぞれの個性を活かした稽古をしている。相撲を始めたばかりの選手たちだが、身体の高い選手、小さい選手、運動の得意な選手、苦手な選手それぞれの個性にあった稽古を行っている。それは相撲だけでなく、同じ道場の仲間たちと過ごす時間にもつながる。自分が得意なこと、できることを見つけ仲間のために何ができるかを考え行動できる人間に育ってもらいたい。



県内小中高生合同稽古



県内連携強化練習会

栃木県内の相撲クラブや中学校・高校相撲部との連携を図るべく各地の練習会に参加している。小中高の連携を図り栃木県全体の競技力を底上げすることを目指している。また、宇都宮市には屋内土俵がないため、冬季の練習が難しい。冬季は各チームに出向き練習をしている。今後は連携の範囲をさらに広め、相撲だけでなく多様な格闘技の練習会にも参加し競技横断的な連携も図る予定である。

県外遠征

県外の相撲クラブにも遠征した。通常練習では対戦することのない相手との稽古はとても刺激的である。また、普段の練習では気づきにくいことにも気が付くことができ、自信にもつながる。同じ相撲を志す選手たち同士で、切磋琢磨しあえる仲間が増えることはとても重要である。また、相撲部屋の稽古にも参加した。初めて見る本物のお相撲さんに選手たちは大興奮だった。

二所ノ関部屋稽古参加



朝霞相撲錬成道場

令和5年度遠征先

- ・朝霞相撲錬成道場
(練馬石泉相撲クラブ)
- ・桐生相撲道場
- ・二所ノ関部屋

11月現在

地方大会出場

県小学生相撲大会

七月二日大田原市美原運動公園相撲場において県小学生相撲大会が行われた。関東大会につながる大会である。宇都宮相撲道場初の大会として五名の選手が出場した。初めての大会ながら、それぞれ上位入賞を果たすことができた。

試合成績

四年生以下の部

石川 孔雅 準優勝

一宮 悠李 予選敗退

六年生の部

重盛 結太 優勝

関 心越 準優勝

割谷 蒼司 第四位



県中学校総合体育大会相撲大会

七月九日大田原市美原運動公園相撲場において県中学校総合体育大会相撲大会が行われた。こちらも関東大会、全国大会につながる大会である。一名が参加し一年生の部で準優勝を果たした。優勝が狙えただけに悔しい結果となったが、今後の活躍が期待される。

試合成績

一年生の部

割谷 純虎 準優勝

無差別級の部

割谷 純虎 三回戦敗退



中部日本選抜中学生相撲大会

七月三十日長野県・木曽町民相撲場において中部日本選抜中学生相撲大会が開催された。宇都宮相撲道場として初の県外の大きな大会となった。普段とは違う環境の雰囲気であり緊張した様子で、思うように体が動かず悔しい結果に終わった。この悔しさをばねにさらに練習に励み強くなってもらいたい。

試合成績

個人戦の部

割谷 純虎 一回戦敗退





明石志賀之介杯子ども相撲大会

十月七日宇都宮市宇都宮駅東口特設会場において明石志賀之介杯子ども相撲大会が行われた。今年八月に開業した宇都宮FCJ（ライトレールトラジット）の開業記念大会として行われた。結果は振るわなかったが、楽しみながら参加することができ、チームの仲も今まで以上に深まった。伝説の初代横綱明石志賀之介を目指し、稽古に励みたい。

試合成績

高学年の部

関 心越 第三位



県中学校新人体育大会相撲大会

十月十六日大田原市美原運動公園相撲場において県中学校新人体育大会相撲大会が行われた。来年度に向け今年一年間の練習の成果を確認する重要な大会である。まだ、試合に慣れておらず練習の成果を十分に発揮することができなかった。一生懸命な取組が報われるよう、今後さらに稽古を重ね、来年は優勝を目指したい。

試合成績

一年生の部

割谷 純虎 第三位

軽量級の部

割谷 純虎 第三位

無差別級の部

割谷 純虎 二回戦敗退

一般建築・リフォーム施工

将建

〒320-0061

栃木県宇都宮市宝木町 1-80-7

TEL 090-1610-2165

FAX 028-616-2165

将建

SHOKEN

関東・全国大会出場

関東小学生相撲大会

八月二十六日埼玉県・埼玉県立武道館において県小学生相撲大会が行われた。全国大会につながる大会であり一つの大きな目標である。七名の選手が出場したが全国の壁は高かった。来年につなげる。

出場選手

石川 孔雅 (四年生の部)
 高田 璃唯羅 (四年生女子の部)
 高田 悠唯羅 (四年生女子の部)
 高田 怜唯羅 (五年生の部)
 重盛 結太 (六年生の部)
 関 心越 (六年生の部)
 割谷 蒼司 (六年生の部)



関東大会に出て

石川 孔雅

関東大会に出てみて強そうな人がたくさんいてびっくりしました。

一回戦目が近づいてきて勝てるかどうか心配になったけど、なんとか勝ててコッをつかめました。二回戦目は一回戦目よりも緊張がほぐれたけれど負けてしまいました。優勝して全国大会に行きたいと思っていたので悔しかったです。これも良い経験だと思いました。

これからは、たくさん練習をして千代の富士のような強くなつて関東大会や全国大会で優勝したいです。

ナルミヤスポーツ

〒324-0056

大田原市中央 2-16-15

TEL 0287-23-6668

全国少年相撲選手権大会

十月九日東京都・立川立飛アリーナにおいて全国少年相撲選手権大会が開催された。初めての全国大会で十四名全員が出場した。また、初めて団体戦にも出場した。そして、小学校五年生女子の部において高田怜唯羅選手が優勝した。宇都宮相撲道場初めての全国チャンピオンが誕生した。

団体戦は二回戦で強豪チーム相手に惜しくも負けたが、個人戦からは学べない独特の悔しい想いを味わった。来年度からは、この大会で団体優勝することを年間最大目標とし稽古に励む。

出場選手

- | | |
|--------|-----------|
| 野口 燿 | (二年生の部) |
| 渡邊 倅暉 | (二年生の部) |
| 一宮 悠李 | (三年生の部) |
| 高田 璃唯羅 | (三年生女子の部) |
| 石川 孔雅 | (四年生の部) |
| 高田 悠唯羅 | (四年生女子の部) |
| 中野 大義 | (五年生の部) |
| 野口 碧王 | (五年生の部) |
| 高田 怜唯羅 | (五年生女子の部) |
| 重盛 結太 | (六年生の部) |
| 関 心越 | (六年生の部) |
| 割谷 蒼司 | (六年生の部) |
| 割谷 純虎 | (中学生の部) |



初めての全国大会

高田 怜唯羅

会場に着いた時、緊張していました。一回戦目は勝ちました。だけど、頭から当たられませんでした。二回戦目も、もう少し強く当たれたと思います。準々決勝戦の相手は、足と腰が強いので簡単に投げることができませんでした。決勝戦は体が小さい相手に持ち上げられそうになりながらも何とか勝つことができました。

私は、優勝して自信ができました。しかし、気持ち弱いのでそこを直して次の大会に向けて練習を頑張りたいです。





グリル光陽

〒530-0047
大阪府大阪市北区西天満 5-15-9
TEL 06-6365-6718



令和5年度賛助会

宇都宮相撲道場は賛助会の皆様の御協力のもと運営を行っております。今年度から始まった相撲道場ですが、おかげさまで多くの皆様に御賛同いただくことができました。皆様に御協力いただいた賛助会費は食事代、遠征費、まわし代など選手の手力となるよう有効活用させていただきます。今後とも御協力の程よろしくお願い致します。

令和5年度賛助会会員の皆様(敬称略)

有限会社河内環境産業	5口
株式会社アイアールエステート	3口
大沼 健司	1口
川上 敦也	1口
菊池 大史芽	1口
将建	1口
鈴木 愛	1口
鈴木 雄山	1口
高木 飛翔	1口
栃木県立黒羽高等学校相撲部	1口
栃木県立矢板高等学校相撲部	1口
有限会社シノブヤ	1口
有限会社ナルミヤスポーツ	1口
間島 奨悟	1口
合計	20口

御入会のタイミングにより御紹介ができなかった場合がございます。次号の会報にて改めて御紹介させていただきますので御了承ください。なお、今年度分及び来年度も賛助会員を随時募集しております。御賛同いただける方は申込書を御記入の上、下記の口座に御振込みをお願い致します。

【足利銀行 県庁内支店 普通口座 5510262 一口一万円】

編集後記

“アレ”

阪神タイガースが三十八年ぶりに日本一に輝いた。岡田彰布は監督復帰一年目にして歴史的偉業を成し遂げ阪神タイガース史上唯一、選手監督の両方で日本一を達成した。

岡田監督と言えば、シーズンを通じて「優勝」という言葉を封印し優勝のことを「アレ」と表現していた。これは選手が優勝という言葉を意識しすぎるあまり本来のプレーができなくなることを避けるためだそう。岡田監督はシーズン前のインタビューで「ビッグプレーとかファインプレーとかはいらない。まあ、たまにファインプレーはあつてほしいけどね。」と語っていた。初めてマジックが点灯した八月十六日には「当たり前のことを当たり前にやったらええ結果が出るだけやんか。自分らで崩れていくのは、そらあかん。」と語った。当たり前のことを当たり前にやる。これが岡田監督の監督論である。今年の阪神はボール球を振らずバントなどでしたかりとランナーを送り、点を取れる時にしっかりと点を取る。その結果受けた四球の数は十二球団でダントツに多かった。野球にとつての当たり前をきちんと成し遂げアレを達成した。

相撲にとつての当たり前とは何だろうか。相撲は一瞬で勝負が決まる。その一瞬に日々の稽古、生活のすべてが表れる。ビッグプレーを狙うのではなく当たり前のことを当たり前にやる。相撲も同じだろう。私は初めて監督として選手を預かる身となった。監督として相撲の当たり前を探求し、宇都宮の選手たちと共に“アレ”を成し遂げたい。

高木 飛翔

